

平成 27 年 11 月 7 日

## 日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 和田航一

### 1. 概要

地域分類	東北西
歩行区間	スタート地点: 酒田
	ゴール地点: 象潟
実施期間	9 月 14 日～18 日
全歩行距離	約 40km

### 2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢・期	歩行日数	備考
1	リーダー	和田航一	80 歳 3 期	2 日	
2		尾崎正彦	77 歳 4 期	2 日	
3					
4					
5					
6					

### 3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	9 月 14 日	新宿駅 BT(夜行)～酒田			夜行バス
2	9 月 15 日	酒田鮮魚市場～吹浦駅	20km	和田航一・尾崎正彦	
3	9 月 16 日	吹浦駅～象潟漁港	20km	和田航一・尾崎正彦	
4	9 月 17 日	鳥海山五合目展望台往復			乗合タクシー
5	9 月 18 日	象潟駅(夜行)～東京駅 BT			夜行バス
6					
7					

### 4. 参加費

交通費 夜行乗合バス (新宿～酒田)・(象潟～東京) 18,241 円  
宿泊費 (吹浦・象潟) 2 泊 16,740 円  
立寄り ☺ (象潟道の駅 ☺) 1,500 円 合計 36,481 円  
寄道 鳥海山五合目タクシー往復 3000 円 (1 台)

## 5. 歩行記録

9月15日(火) 酒田から吹浦まで(晴れ・24度C・微風)

新宿から夜行高速バスの終点・酒田海鮮市場前で降りた。酒田港は最上川河口に広がり、江戸時代から北前千石船などの歴史ある港で、豪商本間さまの地元、芭蕉を初め多くの俳人文人が訪れている。

二人とも夜行バスでの寝不足は無く、鮮魚市場の食堂で刺身朝食を済ませ、8時に歩き出す。

今日の目的地は約20km北の吹浦だ。

今回の旅は、日本海と鳥海山を見ながら日本海沿岸を歩くのを目的とした。海は青く広がり波静か。鳥海山は緩い裾を海にまで伸ばしている。港近くはコンテナクレーンの並ぶ岸壁やトラック基地が並び海岸に中々出られない。

後先になって歩く初老夫婦二人連れの歩き旅人に、行先を訪ねると吹浦の先までと言う。5キロほど歩いてからようやく庄内海岸の砂浜に入る。日本海の波は静かで風もなく快晴だ。

右手の分厚い防砂林越しに鳥海山が見え、風力発電機は低い風切音でゆっくり回っている。80歳と77歳の同行二人は50分歩いて10分休むと約束した。昼飯時となり、浜から国道に出ようとするが、防砂林に切れ目がない。手に粒貝を下げて浜を歩いて来た老婆に道を尋ねる。2時頃ようやく国道の道の駅でラーメンにありつく。今日の宿、吹浦駅前の旅館に15時到着した。宿の後ろに鳥海山が黒々と聳えている。初日の約20kmを無事歩いて二人とも自信がついた。

9月16日(火) 吹浦から象潟まで(晴れ・26度C・微風)

朝飯前、駅前ではリヤカーを曳き日本沿岸を歩く73歳の陽焼した老人とで出会う。愛知から東海道・常磐・三陸・北海道を歩いて南下、昨夜は無人の駅舎に寝たという。我らと同類と歓談し握手して見送った。親切な宿のカミさんの見送りで出発する。県道から崖を降りて波打際を歩く。

海に注ぐ小川に遮られ、防砂林の茨を藪漕ぎ迂回し木橋を渡りまた浜に戻るなどする。昨日の昼食探しに懲りて浜に出る前にコンビニで握飯を買い、砂浜に座って昼食を摂る。海岸歩きでも携帯食が必要だ。灯台の岬では、東北自然遊歩道を辿る。象潟漁港の近い宿「潮騒」には15時に到着。元気な尾崎さんは、象潟の浮島を望む蛸満寺を探索に行った。芭蕉の句にある象潟の浮島は、その後の地盤隆起で今は田圃の中に多くの小山が点在している。和田は宿から海に赤く沈む夕日を眺めていた。

夕食は地元の魚ノドクロのから揚げなどを肴に40km歩行の完了を祝って、ビールで乾杯した。

9月17日(木) 余禄・鳥海山五合目展望台往復(乗合タクシー 1台3000円)

昼前に蛸満寺を巡り、鳥海山には予約乗合タクシーで五合目・鉾立まで行き、展望台で山と溪谷を展望し、昨日歩いた長い海岸線を眼下に遠望した。尾崎さんは七合目まで往復した。下山後、温泉付き道の駅で夜まで粘って帰京の夜行バスは22時20分を待った。

この日、和田は朝飯前に鳥海山を背景に象潟漁港風景スケッチを、鉾立展望台で尾崎さんを待つ間に鳥海山のスケッチを仕上げ満足した。

今回は試しに、往復とも夜行乗合バスとしたが、運賃は鉄道の6割、宿泊費も減り、今後の参考となった。

私達が歩いた庄内海岸は、奥の細道の曾良の旅日記には「此の間六里、砂浜、渡し二つあり」この庄内砂浜は聞きにし勝る悪路だと記している。歩行するにも足首まで砂に埋もれ、当時は北風が吹くと砂飛び散り旅人を悩ませただけでなく作物にも多大な被害を与えたから、江戸時代初期から幾度も防砂のため松が植林されたが、若木は砂に埋もれてめぼしい成果を上げられなかった。巨費を投じて植林に乗りだしたのは酒田の豪商本間家で幾度かの失敗を重ねてようやく防砂林を根付かせることに成功させたとある。

6.歩行記録写真



波静かな日本海 庄内海岸を歩く



名峰鳥海山を背に 分厚い防砂林が延々と続く



象潟は…… 蚶満寺 芭蕉象の前の和田・尾崎